

授業科目名	老年看護Ⅱ			担当教員	原田 紀美枝 姫野 稔子	
開講年次	3年前期	セメスター	5	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	加齢に伴う諸機能の変化と高齢者特有の健康課題から生じる日常生活上の問題に対し、個別的援助方法を導くための視点と技術を習得する。					
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者特有の健康問題のメカニズムおよび看護を理解できる。 2. 生活者として的高齢者をとらえるために必要なアセスメントの視点を理解し、高齢者の個別性を捉えた生活援助技術を習得する。 3. 高齢者特有の健康問題を持つ対象の看護過程の展開について理解できる。 					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 栄養・代謝パターン① (栄養障害・浮腫)	講義	栄養障害・浮腫のアセスメントの視点と看護について復習する。	1時間	原田	
2	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 栄養・代謝パターン② (脱水・皮膚掻痒症)	講義	脱水・皮膚掻痒症のアセスメントの視点と看護について復習する。	1時間	原田	
3	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 栄養・代謝パターン③ (摂食・嚥下障害)	講義	テキスト1章3の摂食・嚥下障害を読んてくる。	1時間	原田	
4	摂食、嚥下障害のアセスメントと食事援助、口腔ケア援助方法①	演習	3コマ目の授業内容を演習で使えるように理解してくる。	1時間	姫野	
5	摂食、嚥下障害のアセスメントと食事援助、口腔ケア援助方法②	演習	3コマ目の授業内容を演習で使えるように理解してくる。	1時間	姫野	
6	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 活動・運動／睡眠・休息パターン (転倒・廃用症候群・睡眠障害)	講義	転倒のリスクファクターと高齢者の睡眠障害と各々の看護について復習する。	2時間	姫野	
7	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 排泄パターン (排尿障害・排便障害)	講義	排泄のメカニズムおよび障害の種類や看護について復習する。	2時間	姫野	
8	身体可動性の障害のある高齢者への移動・排泄の援助方法	演習	事前に配布する課題に取り組む。	1時間	原田	
9	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 認知・知覚パターン① (抑うつ・せん妄)	講義	抑うつ・せん妄アセスメントの視点と看護について復習する。	1時間	原田	
10	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 認知・知覚パターン② (認知障害)	講義	認知症の病態および症状に対する看護について復習する。	2時間	姫野	

11	高齢者に特有な健康問題及びアセスメントの視点 認知・知覚パターン③ (コミュニケーション障害)	講義	コミュニケーション生涯の原因と種類を理解し、各々の看護について復習する。	2時間	姫野
12	高齢者の End-of-Life ケア	講義	終末期の概念を理解し、講義内容を踏まえてそれぞれの死生観を考察する。	2時間	姫野
13	高齢者に特有の健康問題を持つ対象の看護過程の展開1	演習	事前に配布された課題に取り組み演習に備える。	2時間	原田
14	高齢者に特有の健康問題を持つ対象の看護過程の展開2	演習	事前に配布された課題に取り組み演習に備える。	2時間	原田
15	老年看護Ⅱの総括 定期試験のフィードバック	演習	老年看護Ⅱにおける学習内容で理解が不十分であった箇所の整理を行う。	1時間	原田
先行履修科目	2年後期までに履修すべきすべての科目				
テキスト	堀内ふき他：ナーシンググラフィカ老年看護学②高齢者看護の実践，メディカ出版，2016.				
参考文献	山田律子他：生活機能からみた老年看護過程，医学書院，2012， 大塚真理子：カラー写真で学ぶ高齢者の看護技術，医歯薬出版，2012.				
メッセージ	3年次後期の老年看護実習で活用できるように知識・技術を身につけてください。				
科目の位置づけ	2年後期の老年看護Ⅰで学んだ老年医学や加齢的変化が高齢者の生活に及ぼす影響を理解したうえで、高齢者特有の健康問題とその看護に関する知識・技術を学ぶ科目である。本科目は、3年後期に控える老年看護実習につなげる位置づけである。				
ディプロマポリシーとの関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
			○	◎	
評価方法	定期試験 80% レポート 20%				